

2021年10月25日 聖書朝礼

「涙と共に種を蒔く人は 喜びの歌と共に刈り入れる。種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は 束ねた穂を背負い 喜びの歌をうたいながら帰ってくる」。

～ 詩編 126.5～6 ～

全校の皆さんお早うございます。

10月も最後の週を迎えました。ついこの間黄金色の畑が刈り取られ焼かれているところが見られすっかり収穫の秋を知らせています。収穫は嬉しいことですね。今日読まれた聖書の言葉には、「喜びの歌と共に刈り入れる」という前文に「涙と共に種を蒔く人は」とあります。続いて「種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は 束ねた穂を背負い 喜びの歌をうたいながら帰ってくる。」と書いています。喜びの収穫の裏には土を耕し、種を運んで土に蒔き、収穫までに様々な世話をしないといけないことが、短い文章でありながらよく伝わります。この詩編は私たちの生活、そして私たちの人生の知恵を教えています。畑を自分の人生にたとえ、土は自分自身となり、土を整えるというのは自分の目標のための準備や計画を意味しています。「種の袋を背負い」とか「泣きながら出ていく」というのは、種を蒔く、つまり何か始めるためには大きな力や涙みたいな苦労があることですね。これは人生の中で何度も現れるチャレンジのようなものではないでしょうか。今の皆さんで言うと自分の目標のために日々努力している全てのことを言っていることでしょうか。結果が見えず、勉強している意味も分からない時があると思います。明日も将来も不安で周りの話が聞こえず反抗したい気持ちに何度もぶつかる時がきっとあるでしょう。これを乗り越えて、雨の日も風の日もめげることなく土に種を蒔いて、水をやり、つまり全てをなげだしたくなる気持ちや沢山の誘惑に耐え、日々の学習を怠ることなく努力を重ねたときには、自分の限界を越えた結果を味わうことができるのです。今は勉強にたとえましたが、畑を人生に照らしてみると、学習だけでなく自分をつくっていく行為は沢山あります。忍耐強くチャレンジすること、人に親切にすること、掃除をしっかりすることも自分の人生の畑の立派な肥料と水やりになります。私たちの生活の中で意味のないもの、つまり肥料にならないものはありません。皆さんは毎日自分の種の成長のために頑張っていると思います。

先週、アフリカ人で世界で最も影響力のある100人に選ばれた日本の大学初のアフリカ系学長、マリ共和国出身のウスビ・サコさんのお話を聞く機会がありました。この方の話はまた別の日に分かち合います。お話の中で「なぜ自分がその100人に選ばれたか知らない。ただここにいただけなのに」と語られました。しかし、サコさんはいろんな国で勉強しながらその知識と経験を若者や地域のために使うことによって100人の一人に選ばれたと思います。私たちも自分が持っているもの得られたことを周りの人と分かち合いながら、自分だけでなくみんなを豊かにすることで周りに良い影響を与える人になりましょう。それぞれ立派な自分の土のための水やりですね。

では、収穫の秋ですので、お弁当の時は、お弁当に辿り着くまで尽くして下さった方々のために感謝の祈りを忘れずにいただきましょう。

